

かば善い處もあるだらう、せめては其よい處をうけてくれる様、似てくれる様に念願して、生れ落つるより二十年、今日に到る迄、そうした希望を以て、親としての

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

面倒を見てやつたきたい。又今日御臨席下された各位におかれども、此若夫婦を指導聲援せられ、一人前の人間に仕立て、下さる事を、幾重にも懇願し奉る。

れ等の行事を期々とした餘韻を以て包み緩急の當を得て誠に上乘であり尙故知新の妙を備えた所敬服の外はない。當日青沼氏の代表祝辭は、人役の適切なる訓辭は

大連。濱崎ヨシ、和門太、善男、ふみ、かつ、重徳、熊本。安田、藤翁、江上、藥野男、福島。安田、やた、樺太。波部孝一、増野、長沼。磐瀬次郎

内郷村報

發行所 内郷村報社
社址 内郷村
電話 八四〇
印刷所 内郷印刷所
印刷 八四〇
代印所 内郷印刷所
代印 八四〇
代印所 内郷印刷所
代印 八四〇

立てよ我子よ

御歎かざして

稻荷山上の訓辭

大内民恵

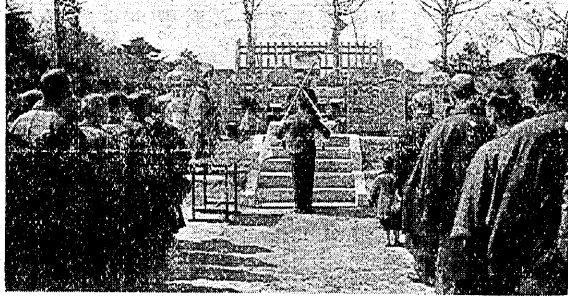
今年三月長男一郎が、中學を終へて百姓を志ざし、日本國民高等學校へ入學したので、四月三日郷里の氏神稻荷山國本神社前に於て授歎式を舉行した。之は其時の訓辭の大要である。

寛

政八年、先祖大内彌惣左工門由房が、村治に功勞あつて藩公より數度の表彰をうけたるを紀念して奉祀したる稻荷祠に、昭和三年、父が我國の思想混濁を嘆き、之を救はんには建國の精神に還らざるべからざるを痛感して、皇祖天照大神、神武天皇、明治天皇を始め奉り、全國官國幣社祭神、二百余柱の神々を合祀し奉りたる、全國無例なるこの

我國空前の授歎式を擧ぐる事は、父の無上の欣快とする處である。此機會に於て父は汝に對して、我衷心からの希望を述べて置かうと思ふ。父は先年、多年の實驗と研究との結果、現代に於ける世界の教育が、學理と實際に矛盾あるが故に、其徹底を期する事が出来な

を擔いた事なれば、果してどうあらうかと、親心として聊か心配せざるを得なかつたのであるが、汝が手の



授歎式光景

百 姓となつて、大内案九主義の一主義、教育分區主義を實現して、之を以て國家に奉仕せんと、本年中學を終るや、日本國民高等學校入學を志し、既に過ぐる一ヶ月間、同校主催の短期講習に出席して、其課程を履んだ次第である。生來初めて歎をとり、肥桶

悟されば、必ずや汝の志望は達せらるゝであらうと、見とほしがついたのである。故に茲に本日、汝に對して二挺の

の精神を以て、自ら歎をこつて、農村經營の任に當らんとする、之れ上は皇祖皇宗に

家は、他の一挺の歎に、我訓たる「我家は我に學べ、我村は我家に學べ

授歎式に

名にしおふ 瑞穂の國の民たれと 歎を捧げてまづ祈るかな
今うけし 歎もておこせ 國の富 やがて家をも 永久に榮えん

農 事を以て立國の大方針とあるが、今や國を擧げて農村荒廢を叫ばれ、皇運の前途大に憂慮せざるを得ない状態を呈し、畏くも我 聖上兩陛下に於かせられても深く之を軫念遊ばされ、親ら農桑に聖範を垂れられつゝある事は、國民の等しく恐懼感佩し奉る處である。此秋に當つて汝が興家奉公

の使命あり」を彫刻してある。而して其修養の大方針は、過日姉の結婚式に父の授けたる天法人則に従順なるべしである。汝は之を拳々服膺して、粉骨碎身素志貫徹に奮勵努力せよ。

楠 公は決死湊川に向はん賜の短刀を授けて、君恩に報すべき事を垂訓した。汝

(以下二面へ)

(二面よりつづく)
 は當時の小楠公より長ずる事八歳、父の訓辭はよくわかる事と思ふ。今や尊氏以上の大敵が、全國に瀰漫する事をゆめ忘れてはならぬ武士に刀、百姓に鍬。此二挺の鍬には

父 今生の熱願が彫りつけであるのである。一年一回「農の初め」に之を打ち振つて、父が今日の訓辭念願を想起して、心身の緊張を計り、其年一年の計畫を立てよ。而して之を傳家の寶物として、子々孫々に傳へ、振興興國に努めよ。父の訓辭は之が全部である。茲に此神前に於て、神々の照鑒守護を仰ぎ、列席各位の指導聲援を乞ひ、其目的達成を祈願する次第である。神々も各位も我等父子の憂國の至情をみなはされん事を、偏に希ひ奉る。

白石師講演會

伊藤南州師去つて寂寞を感じて居つた磐炭では、此度新に白石支海師を迎へて三月三十一日と四月十日の二回に涉り、昭和館に於て講演會を開催した。日支事變、尼港事件、日米戦争近し等の演題で、満員の大喝采を博した。

内郷村學事概報

本村内各種學校では、三月二十四五兩日に涉つて、例年の通り卒業證書授與式を舉行したが、今其學事の要項其他を一括して左に之を掲ぐ。

△尋常科 (高坂)

尋常科
 在籍、一六八。修業生、一〇一。卒業生、一四六。優等生、二四。進歩賞、二〇。精勤賞、五。六ヶ年精勤賞、七。部會賞、二名。星野定勝小野ハル子新入生、二五〇。

△高等科

高等科
 在籍、六九七。修業生、三三五。卒業生、一四六。優等賞、二三八。進歩賞、一八。精勤賞、三〇〇。八ヶ年精勤賞、一八。部會賞、五名。木村長藏小堤勇齋藤行雄井出ヨノ宮島ハル子新入生、四五四。中等學校入學者、青木滿男、鈴木武雄、鈴木實、商業、渡邊源、鈴木芳忠、鈴木武夫、會川太平、荒木勝彌、鈴木正平。高女、朴佳音樓、矢部貞子、草野トシ子、馬目キヌ、寺島フサ子、吉田キヨ子、藤原正子、小野ハル子、長谷川輝、佐藤チヨ、馬目ハル子、鈴木ハル、根本ミチ子、直井ミサチ、野木知伏子、受驗者、尋常科一五名中一四名合格。受持訓導木田芳重同加美山ツネ子。高等科三名中一名合格。教員移動、訓導永山嘉久田人へ同木田芳重草野へ同安積チト七第三へ同仲村操平へ同キミ廣野へ校

△第一校 (御蔵)

第一校 (御蔵)
 在籍、四一九。修業生、三五九。卒業生、六〇。優等賞、九六。進歩賞、一八。精勤賞、一七九。六ヶ年精勤賞、二。部會賞、一名。草野三郎。善行賞、一名。開口直之新入生、六八。中等學校入學者、中學、山崎導雄、草野芳房、吉田商業、草野三郎。高女、菅波はな子、網掛ヤエ子、吉田イネ、山崎富子。受驗者十二名中八名合格、受持訓導大橋貞勝。教員移動、吉田訓導は平、遠藤訓導は磐崎第一轉任。野崎順訓導田村より、大須賀シゲヨ訓導好間校より來任。

△第二校 (内町)

第二校 (内町)
 在籍、一三六。修業生、一一二。卒業生、一八五。再修生、二。優等賞、二九三。進歩賞、二五。精勤賞、五九四。六ヶ年精勤、一四。部會賞、三。部會賞受領者、石橋正巳、渡邊はる、里見可中。新入學生、二二二。中等學校入學者、中學、根本正男、秋山金彌、佐藤逸、石橋正巳、武藤義明、渡邊雄舟田義澄、杉山朝臣、里見可中、石井敬光。商業、白旗安雄、大越孝一、高女、菅本キヨ、大越アイ子、永井シツ、小野澄子、渡邊はる、五

△第三校 (宮)

第三校 (宮)
 在籍、一五九四。修業生、一三七九。卒業生、二一五。優等賞、二四〇。精勤賞、七七六。六年間精勤、二二。部會賞、三。上野寅松山口鬼子男、安齊一郎新入學生、三一五。中等學校入學者、中學、安齊一郎、山口重男、比佐九、齋藤利夫、高萩達夫。高女、山崎敏子、小楠山榮子、葉谷ツヤ、遊澤照子。商業、鈴木二郎、齋藤之男、菅野浩、根本浩、磯野長一、牛久隆夫受驗者一九名中一五名合格、受持訓導西牧清富、和田二郎。教員移動、校長岡田圓治郎、訓導鈴木辰雄退職。訓導大平忠一郎は磐崎校、同鈴木仁子高坂校へ轉任。専攻科卒業古市克惠、高坂校訓導安積チト七來任。校長仲村辰四郎好間より來任。

△公民學校 (内町)

公民學校 (内町)
 在籍、七九。修業生、六九。卒業生、一二。優等賞、一三。精勤賞、八。二ヶ年精勤賞、一。修業生佐々木長治君は製作用所勤務の傍ら、二ヶ年精勤賞をうけたるものにて、成績操行共に模範生たる由。

△家政女學校 (裁縫校改稱)

家政女學校 (裁縫校改稱)
 在籍、一一七。修業生、五八。卒業生、一。本紙贊助金寄贈芳名
 金五圓 内郷 某 氏
 金參圓 福島 角田平吾

學生、四三。優等賞、一五。精勤賞、一ヶ年二二、二ヶ年一一。十ヶ年二。
 卒業生中教材共製縫數百枚以上のもの三名授賞、矢澤トキ、新妻チヨノ、中井川愛子。新入生、四九。教員移動、江尻タカ退職

臨時村會

臨時村會
 三月二十三日臨時村會を開き、一、區長認定の件、二、村條例一部改正の件、三、六年度追加豫算議決の件を附議決定した。其豫算は經常費百三十八圓、臨時費五千六百五十五圓計五千三百三圓である。

區長推薦

區長推薦
 此度村會の認定推薦をうけた區長及區長代理は左の通りである。(區順)
 區長 區長代理
 大越惣兵衛 大越勝之助
 草野 與平 藁谷豊之助
 金成源次郎 久野藤三郎
 金澤慶一 佐藤久太郎
 廣木春之丞 山崎糸二
 蘭部末造 鈴木與作
 下山田榮三郎 生田吉太郎
 菅原定隆 萩定雄
 山下喜代治 高木平作

山神祭典

山神祭典
 磐炭山神祭は、十五十六兩日の豫定であつたが、雨天の爲一日繰延べて、例年の通り盛大に舉行した。

教育制度改革概論

矢野 恒太序 大内民惠著
 服部宇之吉序
 (四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

父兄の感謝に輝く

珠玉の訓導

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とを以て、新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校舉に違あらず。されど未だ一人の抗議も現はれず。

我國教育學界の權威

京大教授小西直博士
 書を寄せて曰く、多年の御禮下買地ノ御試練ニ基テ眞學愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感激ニ打タル申候云々。

發行所

日本評論社
 東京九ノ内堀和ビル
 取次所
 内郷村報社

鐵道納炭決定

欸變更申請の手續を了し、其認可を待つて開始の由。

短歌
 春の夜は長閑に更けて蛙なく
 小川にも月の影を霞める

演會を開催した。日支事變、尼港事件、日米戦争近し等の演題で、満員の大喝采を博した。

格受持訓導木田芳重同加美山子。高等科三名中一名合格。教員移動、訓導永山嘉久田人へ同木田芳重草野へ同安積チト七第三へ同仲村操平へ同キミ廣野へ校

在籍、一七。修業生、五八。卒本紙贊助金寄贈芳名 金五圓 内郷 某 氏 金參圓 福島 角田平吾

磐炭山神祭は、十五十六兩日の豫定であつたが、雨天の爲一日繰延べて、例年の通り盛大に舉行した。

發行所 日本評論社 東京九ノ内昭和ビル 取次所 内郷村報社

失野 恒太序 大内民惠著 教育制度改革概論

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とを以て、新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同校學に違あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威 京大教授小西直博士 書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基テ眞學實國ノ大精神ヲ拜味仕テ不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社 東京九ノ内昭和ビル 取次所 内郷村報社

父兄の感謝に輝く 珠玉の訓導

記者は前號社説に於て、全國學務部長に誨告を與へ全國的に石瓦教員の具體的例の一端を擧げて、一般教員の反省を促したのであつたが、本欄に於て、しかも我内郷村内より、珠玉の訓導を紹介する事は、頗る欣幸とする處である。それは内町第二校芳賀正義君である

理髮組合美學

本村の同組合では、三月の部會に於て、兒童教育後援會の證明ある者に限り、組合員の店舗に於て、小學兒童の無料理髮を奉仕的にする事に決定したる由。

内郷信用組合 購買事業兼營

内郷信用組合は、専務理事山崎庫太郎氏中心となつて、逐年好成绩を擧げつゝある事は既報の通りであるが、三月二十七日臨時總會を開き、購買事業兼營の原案を満場一致可決して、定

本村教育上の大問題

我内郷村は昭和六年度の統計によれば、五千三百二十三の小學兒童を有し、之を七十三學級に編制して教育して來たのであるが、之を村内各小學校に就いて見ると一學級の平均兒童數は六十八人乃至九十二人の數字を示し、本郡は勿論全縣下にも其比を見ざる處で、



告奉婚成

春の夜は長閑に更けて蛙なく 小田にも月の影を霞める 俳句 麥笛吟社 水引いて田毎の月やたにじなく 大雨にうたれたにじりけり おたままでに生れし水の田螺かな 打ちあげし泥を乾きしたにじかな 炭礦の灯の遙かな句座や 春の宵 薬先へたにしのついで面白し 訪れし舊師のまや田螺和詩

記者は前號社説に於て、全國學務部長に誨告を與へ全國的に石瓦教員の具體的例の一端を擧げて、一般教員の反省を促したのであつたが、本欄に於て、しかも我内郷村内より、珠玉の訓導を紹介する事は、頗る欣幸とする處である。それは内町第二校芳賀正義君である

ある事を證明してくれた。吾人は大に意を強うする次第である。

一、筒井磐雄氏御夫妻の御媒約によつて、三月二十八日濱崎弘喜を、長女たき子の婿に迎へ、七年會副會長、内郷村報社視學(既に縣當局に通告)として、社會事業並教育事業に従事する事に致しました。二、長男一郎は三月七日中學を卒業し、將來百姓となり、農村振興に貢獻したき希望を有するを以て、日本國民高等學校に入學したので、四月三日大内家氏神國本神社前前に於て、授鐙式を舉行致しました。三、右の事情により、編輯の餘暇なかりし爲、石城版杉田版を休刊し、且つ出征勇士の寫眞書簡等を掲載することが出来ませんでした。以上

謹告

大内民惠

然不可能の事と思はれる。これは由々しき大問題で先生方の御苦勞も容易な事ではないと察せられる。之に對して心ある父兄や、學務委員等に於てもそれく心配して居る事を聞いて居るが此際全村一致前後策を講ずべきだと思はれる。縣當局なども之を看過して居る事は不都合な次第である。



員諸列參

天法人則に従順なれ

大内民恵

これは三月二十八日平町マルトモホールにて擧げたる、長女たき子の結婚式に於ける訓辭の大要である。



第一 第一部 結婚式 宣誓の光景

この三月二十八日平町マルトモホールにて擧げたる、長女たき子の結婚式に於ける訓辭の大要である。願すれば二十二年の昔まなつた。たき子をめぐもつた事がわかつた時に父は

善を盡して教養して来たのであつた。茄子には茄子がなり、豚の子は豚の子で、豚兒否豚女の域を脱する事の出来なかつた事はまことに致し方ない次第である。然るにもか、はらず、此度は我親友筒井氏御夫妻の御媒酌によつて良縁を授けていたゞいた事は、親として無上の仕合せとして、感謝し將た感佩しつゝある次第である。お前も定めし同様の思をして居る事と思はれる。た、此上は本日各位よりいたゞいた御訓辭を遵奉して、其本分を盡す事に精進しなければならぬ。今日まではたき子といふ娘であつたが、只今よりは内私喜の妻である。父は今日之を祝福する爲に、お前の一生涯は勿論、子々孫々迄も遵守すべき言葉をも思つて、こゝ數日間繁忙の内にあつて、辛うじて取りまゐめたものが

我が天法に従ひ、入則に順はんと欲するものなり。の一言である。天法とは天の法則であつて、晝夜、春夏秋冬、我々の壽命等一切、天然の法則を意味するものであつて、晝は働きて、夜は眠り、春秋は給、夏は單衣、冬は綿入を着、命數が盡くれば立派に往生する、我々が盡くれば此法則に従はねばならぬのである。人則とは人間の規則である。世界人として將た國民として、守らねばならぬ道徳法律習慣等一切、人生の規則を意味するものである。我々は今日御臨席下された各位におかれ、一人前の人間に仕立て、下さる事を、幾重にも懇願し奉る。

天は

法に則して従順なれといふ事にも道徳も一切が之に含まれてゐる。世界の四聖と稱せらるゝ、釋迦、孔子、基督、ソクラテスの教へも將た又長けられ、明治大帝の數々の御勅諭中にも、之が含まれてある事と拜察する。天法人則に従順なれ、特に今日之を肝銘して、實行する機心から切望する。次に弘喜さんにも、一言お願するが、



第二 第二部 披露宴の光景

前にも申し通り、娘はまことに不束者であり、足りない者ではあるが、因縁あつて妻として、下さつた以上は、一生の間之を可がつて、まことに天法人則を遵奉して、圓滿なる家庭をつくり、二人の弟等の上にもよく面倒を見てやつたいただきたい。又今日御臨席下された各位におかれ、此若夫婦を指導聲援せられ、一人前の人間に仕立て、下さる事を、幾重にも懇願し奉る。

大内式結婚の紹介と感想

偶田卓夫
去る三月二十八日濱崎弘喜氏と大内たき子嬢との華燭の典が平町マルトモ、ホールに於て大内式に則り盛大に擧行されたことは芽出度限りである。茲に更めて祝意を表し乍ら表題に因み執筆することにした。大内式による結婚式次第は次の如くである。

第一部 結婚式(一時間)
一、開式ノ辭。二、國歌合唱。三、勸語奉讀。四、誦(高砂)。五、宣誓。六、盃事。七、誦(四海波)。八、祝辭。九、訓辭。一〇、答辭。一、誦(浪花津)。二、開式の會田病院院長。石橋弘毅氏、誦役

第二部 披露宴(三時間)
一、開式ノ辭。二、來賓及列席者紹介。三、祝宴。四、萬歳三唱。五、閉宴ノ辭。以上云ふまでもなく結婚は人生の大本を定むべき吾人の大典なるが故に莊嚴を旨とし而も喜祝の情に自然に浸り得るものでなくてはならぬ。此点に於て大内式が結婚式披露宴を引續いて手頃な時間内に切り上ることにされたのはスベト時代の人間心理を克く擱まれてゐる。貧富貴賤の差別なく僅四時間て萬事OKなるのであるから冗費も大いに省ける譯である。式典に於て國歌合唱勸語奉讀萬人をして肅然たらしむるものはない。又諸位に祝典を表象するものは少い。此点實に遺憾がない。宣誓盃事と進行して祝辭、訓辭(仲人)及答辭なる三つ前掲の如くなるも會田院長の三節の誦が程よく分たれ之等の行事を簡々とした餘韻を以て包み緩急の當を得て誠に上乘であり尙故知新の妙を備へた所敬服の外はない。當日菅沼氏の代表祝辭簡々人役の適切な訓辭は

一同の賛同する處であり又特に大内氏が愛媛に向つて「天法人則に従順なれ」の親子の切々たる至情を述べられた時痛く心の底を打たれたが黙視でも構はない親子の至情表示の二ヶ條は是非大内式に加へて戴きたいと思つた。披露宴は席を更めて引續き直ちに催されるのであるが秘め込まれた喜悅が一度に湧き立ち打撲いで歡を盡す所に重点がある。當日生憎中座したものの初から笑ひの爆發が連續的に引續いた光景が未だに眼の當りに發つてゐるのを感じる。要之大内式結婚は人の緊張し喜が興する時間の最高境界内に新舊の粹を集めた儀禮と祝宴を経済的(凡ゆる意味に於て)に織込んであつて現代に最も適應したものであり得可きかと思ふのである。尙茲りに一言つけ加へるが、前陳の通り中座した爲に、賑かであつた第二部の光景を十分に紹介し得なかつた事を遺憾とするものである。

祝 東京 遠藤 二郎
實さむすぶ 秋そまたる、
若草のよめ菜の花に 春風
の吹く 神官 高橋 直記
告げまつり 千代をこまふく
神の大前

祝 白石 綾園
白梅に玉垣つくるよき日かな
草薙ゆる家か、やかに灯されし
紅梅に朝日か、やう御廣前

祝 鈴木 貞子
ハルガニクワシヨクノテンチカ
イハヒマウス
大連。濱崎ヨシ、和門太、善男
ふみ、かつ、重徳、熊本、濱崎
壽翁、江上藥卿男、福島、安田
やた、權大、波部孝一、増野
長沼、齋瀬次郎

祝 鈴木 貞子
ハルガニクワシヨクノテンチカ
イハヒマウス
大連。濱崎ヨシ、和門太、善男
ふみ、かつ、重徳、熊本、濱崎
壽翁、江上藥卿男、福島、安田
やた、權大、波部孝一、増野
長沼、齋瀬次郎

祝 鈴木 貞子
ハルガニクワシヨクノテンチカ
イハヒマウス
大連。濱崎ヨシ、和門太、善男
ふみ、かつ、重徳、熊本、濱崎
壽翁、江上藥卿男、福島、安田
やた、權大、波部孝一、増野
長沼、齋瀬次郎

内郷村報の 六大使命

一、政黨派を超越して、村力充實主義を標榜す。
二、村内公私各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總軌和總努力の實現を期す。
三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
五、本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を兼ねるものなり。

悟さなければ、必ずや汝の志望は達せらるゝであらうと、見とほしがつたのである。故に茲に本日、汝に

内郷村報

姓となつて、大内案九主義の一主義、教育分と、見とほしがつたのである。故に茲に本日、汝に